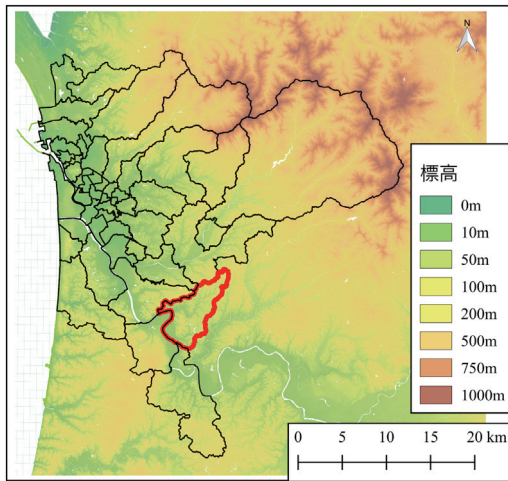


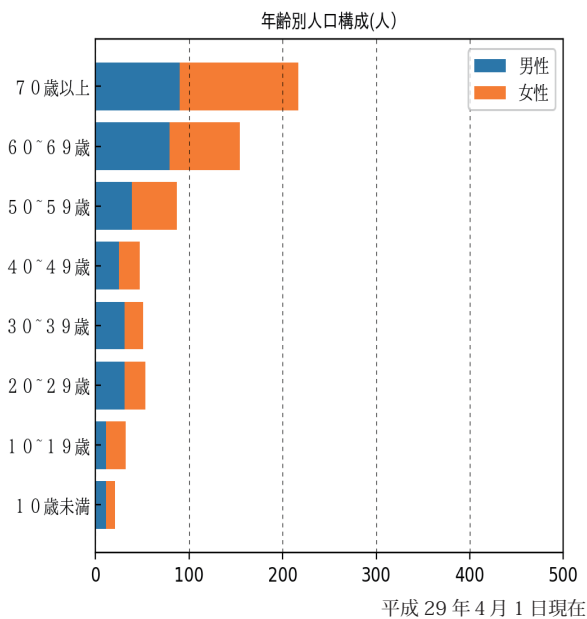
45：雄和小学校（旧種平小学校）区

位置図



1 居住者の現況

人口	662 人
世帯数	254 世帯
65 歳以上人口	294 人
10 歳未満人口	21 人



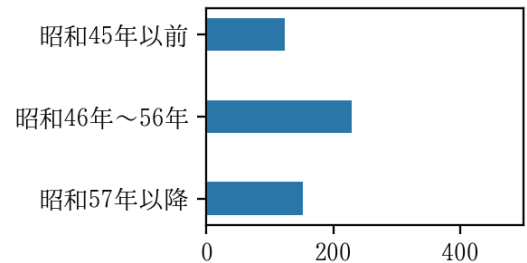
2 建物に関する指標

■ 構造別建物棟数(棟)

	棟
木造建物	504
非木造建物	18

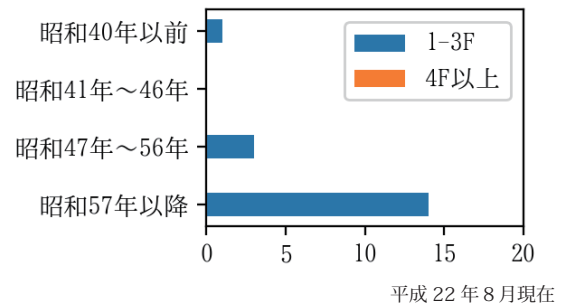
■ 建築年代別木造建物棟数(棟)

	棟
昭和57年以降	152
昭和46年～56年	229
昭和45年以前	123



■ 建築年代別非木造建物棟数(棟)

	1-3F	4F以上
昭和57年以降	14	0
昭和47年～56年	3	0
昭和41年～46年	0	0
昭和40年以前	1	0



自然的・社会的基本指標

雄和地区の東部、雄物川の右岸（北東側）に位置している。雄物川周辺および平尾鳥川・畑沢川に沿った低地部に集落が散在する。急傾斜地等の危険区域が多く分布し、特に平尾鳥川上流域に危険区域が多い。65 歳以上の高齢者層は 44% を占め、40 歳代以下の年齢層人口が極めて少ない。建築物のほぼ全数が木造建物である。昭和 57 年以降の建築物は全体の 31% となっている。

3 自然災害に関する指標（平成 29 年 3 月現在）

■ 洪水

指定河川	雄物川		
浸水面積 (%)	9.7		
最大浸水深 (m)	ランク 5		

■ 土砂災害

* 土砂災害危険箇所

種別	箇所数	主な指定箇所
急傾斜地崩壊危険箇所	32	館ヶ沢、細田、野中、藤森、大巻、平尾鳥字竹ノ花、平尾鳥字中田、石名沢 他
土石流危険渓流	53	ヒヨバ沢、腰ヶ沢、佐渡の沢、石名沢、善知鳥沢、大巻沢、中山沢 他
地すべり危険箇所	0	該当箇所なし
なだれ危険箇所	33	善知鳥、館ヶ沢、野中、藤森 他

* 土砂災害警戒区域

種別	箇所数	主な指定箇所
土砂災害警戒区域	68	糠塚沢、大巻沢、ヒヨバ沢、佐渡の沢、野中、館ヶ沢、平尾鳥字竹ノ花、石名沢 1 号、2 号 他
うち土砂災害特別警戒区域をふくむもの		

■ 地震および津波

* 地震（どこにでも起こりうる直下の地震：M6.9）

平均震度	震度 6 弱	
(計測震度)	(5.73)	
震度 6 強以上となる面積 (%)	7	
液状化危険度ランク	4	
建物全壊率 (%)	4.9	

* 津波（秋田県沖の地震で A,B,C 領域が連動した場合）

浸水面積 (%)	(該当なし)	
最大浸水深 (m)	(該当なし)	

4 災害時要配慮者に関する指標（平成 29 年 3 月現在）

■ 要支援者関連施設（収容施設のみ）

種別	施設数
高齢者支援	0
婦人幼児支援	0
障がい者等支援	0

■ 幼稚園・保育所等

種別	施設数
保育所等	1
こども園	0
幼稚園	0

■ 学童支援施設

種別	施設数
児童館等	0

■ 学校等

種別	施設数
小学校	0
中学校	0
高等学校	0
大学・短大・高専	0
養護学校等	0

5 防火・防災施設に関する指標（平成 29 年 3 月現在）

■ 消防関連施設

消火栓数（箇所）	34
防火水槽（箇所）	12
消防車台数（台）	10
消防ポンプ数（台）	3
消防団員数（人）	41

■ 避難所／避難場所（別表参照）

災害種別	施設数
洪水	0
土砂災害	2
地震	2
津波	0
福祉避難所	0
津波避難ビル	0
津波警報サイレン	0

■ 救急・防災関連施設

種別	名称／箇所数
管轄消防署	秋田南消防署
管轄警察署	秋田東警察署
病院・医院数（歯科を除く）	0
最寄りの救急告示病院	秋田赤十字病院
自主防災組織数	1

自然災害時の危険要素

雄物川の氾濫により、種沢地区の平地部のほぼ全域と、雄物川に合流する平尾鳥川および畑沢川の下流平地部が浸水域となることが想定されている。平地部にある集落では多くのところで 3m 未満の浸水、さらにところによっては 10m 未満の浸水となる。

土砂災害の危険性が高い箇所は多く、警戒区域等の指定は 68 箇所（急傾斜 32 箇所、土石流 36 箇所）に上る。

地震動は、ほぼ全域で同等の揺れやすさとなっているものの、種沢地区の平地部ではやや強い揺れとなる可能性が指摘されている。液状化の危険性は、平地部で高い。津波による浸水の可能性はないと想定されている。

防災上の課題と対策

種平小学校区は、雄物川右岸の種沢地区および平尾鳥川・畑沢川に沿って散在する集落からなる。緊急輸送道路である県道秋田御所野雄和線（特に中川橋）が学校区外への主要な連絡道路であることから、災害時の交通の確保が重要

となる。

地域の建物の多くが旧耐震建築物である。

指定避難所及び緊急時一時避難場所は旧種平小学校の 1 施設である。平尾鳥川沿いや畑沢川沿いの集落からみると避難距離が長く、避難が困難となる事態も想定しうる。さらに、旧種平小学校は洪水時には利用できない立地条件となっている。これらのことから、各集落を単位として、避難の方法、場所、経路などについて地区避難計画を検討し、

訓練などを通してその実効性を確認するなどの事前の防災活動が望まれる。ただし、若年層が少ないことから地域防災力に限界があることから、近隣地区との連携や市内外の補助団体（NPO など）との日常的な交流などの活動を積み重ねることが望まれる。

■ 避難所・避難場所

施設	指定避難所	緊急避難場所					収容人員
		災害の種類（○のみ利用可）					
		洪水	がけ崩れ / 土石流	地震	津波	大規模火災	
旧種平小学校グラウンド	x	x	○	○	x	x	4,875 人
旧種平小学校（体育館）	○	x	○	○	x	x	237 人

福祉避難所

施設	所在地	電話番号
(該当なし)		

津波避難ビル

施設	所在地	利用可能範囲	収容人員
(該当なし)			

津波警報サイレン

施設	所在地
(該当なし)	

